

～セントポルタ中央町商店街 おせったい街づくり事業～

お客様をもてなし、街を楽しんでもらうため、季節に応じた6つの“おせったい（お接待）イベント”を開催。世代を超えた幅広い地域交流と、来街者への細やかな心遣いで集客力の向上につなげた。

所在地：大分県大分市中央町2-3-19大津ビル3F
TEL：097-532-0380 FAX：097-538-3461
URL：<http://centporta.com/>
組合員数：75名
商店街の類型：広域型商店街

商店街の概要と事業を実施した背景

大分駅前の玄関口にふさわしい開閉式ドームを有する近代的なアーケード型商店街。付近には県庁や市役所などの官公庁があり、県内で一番人通りの多い通りである。ファッション性の高い商品を扱う買回品店や飲食店が多く、「セントポルタ中央町」という名称で市民に親しまれている。

近年、郊外型大規模商業施設の進出等の影響に加え、商店街の核となっていた店舗の撤退等もあり、集客力の低下が危惧されている。今後は、大分駅に併設される大型商業施設「JRおおいたシティ」や県立美術館の完成により、中心市街地の人の流れが大きく変わっていくことが想定される。そこで、街なかへの誘客を強化するため、多様な世代の来街者が快適に買い物を楽しめる商店街を目指していく必要があった。



実施した事業の概要

【6つのテーマで“おせったい（お接待）”を開催】

①まちなか子供おせったい：ゴールデンウィーク中は客足が遠のくため、5月5日のこどもの日に店頭ミニ鯉のぼりを飾り、先着200名に柏餅を配布。来街された約700名の親子連れに大変好評であった。

②まちなかお茶おせったい：夏場の暑い時期、街なかの回遊性を高めるため16日間に亘って氷柱の設置による涼しさの演出や、冷えたお茶の接待を行った。評判を呼び中高生など若い層の来街が増加した。

③まちなか健康おせったい：商店街の顧客が高齢化する中で、9月15日の敬老の日に、県立の看護大学生による血圧測定や骨密度チェックを実施。600名を超える参加者があり、商店街が健康の交流の場となった。

④まちなかハロウィーンおせったい：郊外型競合店のイベントに対抗するため、10月24日～31日にかけて親子連れをターゲットにハロウィーンイベントを開催。商店街に飾りつけを施すとともに、仮装した子供たちが街なかを回って飴をもらう趣向で、期間中1万名の子供たちが訪れた。

⑤まちなか安全イルミネーション：地域全体の景観の向上を図るおせったいとして11月24日～12月25日まで商店街と個店にイルミネーションを設置。地元紙への広告のほかに来街者のFacebook等による情報拡散効果で多くの若者が来街してくれた。

⑥まちなかお正月おせったい：ファミリー層が郊外店に流出するため、1月3日の初売りに合わせて子供たちには飴を、親御さんには温かい甘酒を提供するおせったいを実施。500名を超える来街者があった。

年間をとおして、季節や行事に合わせた“おせったい”を実施、地元特産品の提供等と相まって来街された方には大変評判で、改めて商店街を認識して頂く絶好の機会となった。



成果と成功の要因



本事業では、20年ぶりのゴールデンウィーク企画をはじめ、季節の節目ごとにイベントを開催したことで、風情を感じながら買い物を楽しめる商店街として注目を集め、来街者から「商店街の活気を感じる」との声が聞かれた。さらに、来街者への極め細やかな心遣いは、商店街と地域の距離を縮め、幅広い年代層の地域住民を呼び込んだ。

成功の要因の一つには、チラシやポスター、新聞広告掲載で積極的にイベント開催告知を行ったこと。二つには、県内人口の約4割が集中する商圏の規模を背景に、季節をとおして買い物客のニーズを捉えたテーマを設定して「おせったい」が展開されたことである。多様な地域のニーズに応えたことが成果につながったといえる。

今後の取り組み

組合員の他、地域活動に有意な人材や団体との連携も強化し、商店街事業を担う人材を育てながら活動の輪をひろげ、自発的かつ持続的な街づくり活動を担保していく。また、協賛・協力を得ることで事業費捻出を図るとともに、県庁や市役所の助成メニューの活用、報道機関等へ後援を依頼することによる宣伝機会の拡大等を図り事業を継続して行く。